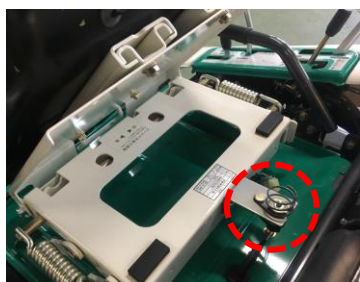


セーフティスイッチの場所

所要時間：5分

必要な道具：スパナ（12mm）

ラビットモアには安全のため3箇所にセーフティスイッチがあり、スイッチが押されているかどうかを感知して、エンジンが起動しないようにする・エンジンを停止させる、などの制御を行っています。パイロットランプ（キーの近くの緑色ランプ）が光っており、バッテリーは正常なのにセルモーターが回らないという場合は、いずれかのセーフティスイッチが押されていない可能性がありますので、ご確認と調整をしてください。



① シート下のセーフティスイッチ

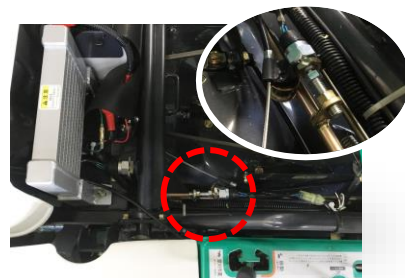
シートにしっかり人が座っているかを検知するために、シートの下にセーフティスイッチが取り付けられています。スイッチが固着していないか、断線していないかをご確認ください。

機種によって画像と見た目が違います。

② ブレーキと連動しているセーフティスイッチ

シートの下にシートブラケットを開くと、ブレーキと連動しているセーフティスイッチが見えます。ブレーキをロックしたときにしっかりスイッチが押されているかをご確認ください。

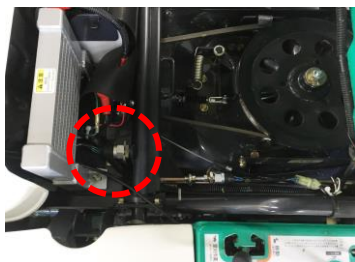
スイッチが押せていない場合は、12mmのスパナを用いてボルトの調整を行ってください。



③ 刈高さと連動しているセーフティスイッチ

シートの後ろ側に、刈高さで連動しているセーフティスイッチがあります。刈高さを一番上にあげたときに、しっかりスイッチが押されているかご確認ください。

機種によって場所が違うものがあり、調整が必要な場合もあります。



RM983の場合



RM831の場合

3箇所のセーフティスイッチが押されているのに症状が改善しない場合は、セーフティスイッチ自体の故障や、そのほかの要因での故障が考えられます。最寄の販売店などでご確認ください。